

## 今泉潤太郎氏が語る愛知大学創成期と『中日大辞典』

東亜同文書院大学記念センター／リサーチアシスタント 石田卓生

愛知大学東亜同文書院大学記念センターで、12月16日午前10時より、東亜同文書院・愛知大学史研究に従事する院生など若手関係者を中心とした勉強会が開かれ、今泉潤太郎愛知大学名誉教授が創成期の愛知大学や『中日大辞典』編纂にかかわる事柄について講演した。

今泉教授は、ご自身の学究の道が、たまたま家から歩いて通うことができる場所に大学が開校したこと、つまり愛知大学との出会いにはじまったと振り返る。学生時代の鈴木沢郎先生（元東亜同文書院大学教授）とのマンツーマン講義の思い出から、『中日大辞典』編纂を通してすすめてきた研究活動など、愛知大学での中国語学研究者としての半生を語った。

現在、愛知大学の象徴とされる『中日大辞典』が、予想される編纂事業の困難さ故に教職員の反対をうけていたこと、本間喜一元学長（元東亜同文書院大学々長）の決断と尽力によってはじめて刊行されることになったことなど、当事者しか知り得ない話などは、出席者を驚かせるものであった。

さらに、今泉教授は、敗戦直後の物資不足時代の苦しい学生生活や、ことばの変化に翻弄されつづける辞典編纂の経験から、無限の可能性とおもっていたものがはてしなく不可能にみえることもある、しかし、それでも眼前の課題を着実に解決していくことで新たな可能性が生じるのだと、若い出席者たちを激励していた。

